

# わくわく科学教室

於：県立児童館

2001. 2. 25

参加者 石浦（科学園）高松（仁美小）福井（伊島小）

小橋一郎先生と鳥越先生がおられる関係で県立児童館で科学実験をやってくれないかという依頼が静観台グループにあり、日曜日の午後にやらせていただきました。

参加者は小学校1～3年が35名、4～6年が19名の合計54名。これに保護者が加わって、教室より少し大きい程度の会場はなんだかギッシリという感じでした。

実施時間は3時間。3部構成で行いました。

第1部は「紙とんぼ」という授業書を取り上げ、紙とんぼが飛ぶ仕組みをクイズ形式で明らかにしていきました。羽根を上ではなく真中に取り付けたコマのような紙とんぼを飛ばしたり、上下逆に持って飛ばしたり、逆回転させて飛ばしたりする実験に、「うそ～!」「え～!」などという歓声が起こりました。斜めになった羽根に空気の粒がぶつかり羽根が持ち上げられることや端におもりをつけることで慣性がつき、長い間回転する紙とんぼができることなどが少しは分かってもらえたのではと思います。「うちの子は今まで竹とんぼを作ってたうまく飛ばすことができなかったのだけど、それが左利きだからということが今日はじめて分かりました。今度からは左利き用の竹とんぼを作ってやります」というお母さんの言葉が印象的でした。

第2部では、一人ひとりに実際に紙とんぼを作って飛ばしてもらいました。第1部の成果があらわれたのか、どの子も上手に作って飛ばしていました。

第3部はガラッと変わって「ドライアイスで遊ぼう」をやりました。これはドライアスを渡したただで大騒ぎ。机の上を滑らせたりコップの水に入れて泡をたてたりとお馴染みの実験をした後、サイダーとシャーベット作りをしました。「こんな美味しいもの食べたことない」という子までいて、大笑いさせられました。分子模型を使って二酸化炭素の説明をした後クライマックスのフィルムケースロケットをやりました。中庭でパンパン破裂する音、余ったドライアスを我先にもらおうと息せき切ってくる子…騒々しい中にも笑顔がいっぱい溢れる楽しいフィナーレとなりました。

